

＜テーマ＞学力向上サポート事業を活用して校内研究を推進し、学習の基盤づくりを行った取組（石巻市立北上小学校）

「北上小学校版算数授業づくりスタンダード」の作成

- ・学力向上サポート事業（算数科）との連携を図りながら、全学級担任による全校授業研究会を実施。
- ・「みやぎ授業づくりスタンダード」や「算数・数学ステップアップ5」を生かした授業づくりを全校で共通実践。
- ・授業研究会の成果と課題を積み重ね、基本的な学習過程における有効な手だてや指導の視点を明確にし、児童の実態に応じた「北上小学校版算数授業づくりスタンダード」を作成。



段階	視点	有効な手だて 指導の視点（指導・助言より）	今後の授業づくりの視点 留意事項
導入	視点1 (1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>長教を軸とした学習過程の工夫</li> <li>児童と本音を明確にする。</li> <li>既習の見方を丁寧に確認すると、未習事項でもできそうだという期待と自力解決の見通しにつながる。</li> <li>数直線を用いて視覚的に確認する。</li> <li>大型模型を活用する。</li> <li>図形の学習では、デジタル教科書等を有効に活用し、学習意欲を高める。</li> <li>図表を活用しながら、自分の考えを説明させ、解決方法についての見通しをもたせる。</li> <li>「解いてみたい」という必要感をもてる導入は、とても大事。身近なものを用いるなど、自分ごととして捉えられるような課題を設けること。</li> <li>見通しとは、①結果の見通し、②方法の見通しがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分のノートに問題場面を整理して、自力解決につなげるかについて提案する。</li> <li>丁寧に既習事項を確認し過ぎると、考えに広がりが出てこないことがある。</li> </ul>
	視点1 (2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>考えを広げるための学び合いの工夫</li> <li>プロットを並べる活動を行う。</li> <li>児童の実態に応じてヒントカードや作業用のシート（カード）の活用を図る。</li> <li>ITからの声掛けやヒントを活用する。</li> <li>ICTとヒントカードの活用は自力解決への手助けになるのみならず、学習意欲の向上につながる。</li> <li>児童が行う作業と思考を、教師が事前に整理し、整理を準備する。</li> <li>自力解決は、ノートに記述するのが大切である。今後各学校で統一し、実践していきたい。</li> <li>自力解決において自分の考えをノートに書かせて整理させることが、考えを広げる学び合いにつながる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自力解決の段階でどのような思考ツールが有効で、発達学年において、どのような思考スキルが必要かについて提案する。</li> <li>児童一人ひとりが自信をもって学び合いに臨めるようにするための自力解決の在り方や、そのための数直線の活用、ワークシートの工夫等について提案する。</li> </ul>
展開	視点2 (1)		<ul style="list-style-type: none"> <li>児童の思考の足跡が残る。話し合いにつながるワークシートを活用する。</li> <li>式を立てて友達と考えを説明させる取り組みは、児童の頭を活性化させる。思考を促すための取り組みである。</li> <li>同じ考え同士で類似点を比較させることで、児童は自分の考えに自信をもつことができ、見えない情報が増える。</li> <li>児童が目的をもって学び合いを行うための手だてや学び合い室について提案する。</li> <li>式を立てて友達と考えを説明させる取り組みは、児童の頭を活性化させる。思考を促すための取り組みである。</li> <li>同じ考え同士で類似点を比較させることで、児童は自分の考えに自信をもつことができ、見えない情報が増える。</li> <li>児童が目的をもって学び合いを行うための手だてや学び合い室について提案する。</li> <li>式を立てて友達と考えを説明させる取り組みは、児童の頭を活性化させる。思考を促すための取り組みである。</li> <li>同じ考え同士で類似点を比較させることで、児童は自分の考えに自信をもつことができ、見えない情報が増える。</li> </ul>
	視点2 (2)		<ul style="list-style-type: none"> <li>児童が目的をもって学び合いを行うための手だてや学び合い室について提案する。</li> <li>式を立てて友達と考えを説明させる取り組みは、児童の頭を活性化させる。思考を促すための取り組みである。</li> <li>同じ考え同士で類似点を比較させることで、児童は自分の考えに自信をもつことができ、見えない情報が増える。</li> <li>児童が目的をもって学び合いを行うための手だてや学び合い室について提案する。</li> <li>式を立てて友達と考えを説明させる取り組みは、児童の頭を活性化させる。思考を促すための取り組みである。</li> <li>同じ考え同士で類似点を比較させることで、児童は自分の考えに自信をもつことができ、見えない情報が増える。</li> </ul>

ノート作りの手引きの作成

・学習した日と教科書のページ数をはじめに書く。

・課題一本時で達成したいことを書く。青で囲む。

・まとめは赤で囲む。

・校内研究の概要 5日指す児童像「自分の考えをもつ」を意識する。

・校内研究の概要 5日指す児童像「伝え合い、学び合う」を意識する。

・学年が上がるに連れて、質的な変化が見られるように、指導の工夫が必要。(※3資料参考)

・終末の適用問題。ノートを使って行う場合の例。

学年ごとの家庭学習の手引きの作成

家庭学習の手引き（4年生版）

家庭学習の目的は、自ら学ぶ習慣を身に付け、様々なことを自ら行う習慣を身に付け、保護者さんとの関係を築いたり、学習内容の理解を深めたりすることです。また、ノートやワークシートに自分の考えを整理したり、友達と自分の考えを伝えたり、自分の考えを説明したりすることです。また、学習内容の理解を深めたり、自分の考えを整理したり、友達と自分の考えを伝えたり、自分の考えを説明したりすることです。

1 家庭学習の準備

2 ノート作成の手引き

3 家庭学習の手引き

- ・『学びが見えるノート』を目指して研修部で提案。
- ・各学年の系統性を意識して継続的に指導。

- ・児童の学習事例を掲載した手引きを作成。
- ・学年ごとに児童や保護者への啓発を図る。